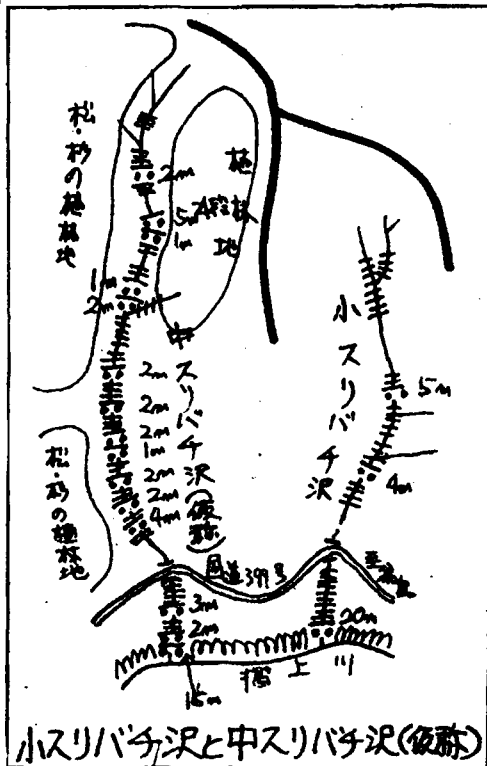


## 中スリバチ沢(仮称)

1983年6月4日

出合は流木と土砂で埋っていた。13:15進行開始。



すぐナメが出てくる。サンショウウオがいるところをみると、盛夏でも完全に水がなくなるといことはなさそうだ。2m程の小滝をまじえてナメがずっと続く。滝の所や深い釜のある所には、岩に足形が刻み込んであるので通過は楽だ。この足形、どうやら伐採作業の人達が刻み込んだようである。依然としてナメと小滝が続いている。

13:50沢は格別変化もないままに源流まで来てしまった。今は背丈以上のブッシュが繁っている植林地の中を右手の尾根めざしてやぶごぎに入る。

(記)

[タイム] 中スリバチ沢出合(13:15)→進行終了(13:50)→尾根(14:15)

## 小スリバチ沢(下降)

1983年6月4日

16:15下降開始。10分程下ると細い流れに突きあたり、更に5分程で本流(ブッシュにおおわれた細い流れでしかない)に出る。ここから一応ブッシュから解放された。

この沢も水はチヨロチヨロと流れているだけである。しかし、この沢の水も完全に涸れてしまうことはなさそうだ(サンショウウオがいる)。

少し下ると5mの滝に出る。右岸に足形が刻まれているので、楽に下る。この沢も伐採作業の時の通り道となっていたのであろう。

下降にはほど良い傾斜のナメが続いて順調な下りである。次の4m滝も右岸に足